

歯科患者を診るためのイントロダクション(IDP: Introduction to the Dental Patient)

責任者・コーディネーター	口腔医学講座（歯科医学教育学分野） 歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 浅野 明子 准教授			
担当講座（分野）	日程表の担当教員（分野）欄に別に示す。			
対象学年	3	区分・時間数	講義/演習	実習
期間	後期		前期	—
			後期	6.0時間 16.5時間

学修方針（講義概要等）

IDPでは、医療面接情報収集、口腔内検査、医療安全など患者治療に必要な知識、技術を習得する。

教育成果（アウトカム）

講義、実習を通して、基本的な医療コミュニケーションの能力を身に付けることができる。また口腔領域に発症する頻度の高い歯科疾患の診断ならびに必要な知識と基本的検査の手技を習得する。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、5）

到達目標（SBOs）

1. 医療面接の目的と方法、手技を説明できる。
2. 医療情報収集（歯科体系、専門用語、主訴、現病歴、既往歴）を説明できる。
3. 歯科医の心構えを理解し、診断の基本を説明できる。
4. チーム医療における歯科医師の役割を理解し、多職種連携について説明できる。
5. 基本的な初診時の医療面接を行うことができる。
6. 基本的な診療姿勢を身に付ける。

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修（予習）は、シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回最低30分以上を要する。適宜、講義冒頭で事前学修内容の発表時間を設ける。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低30分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/2 (月)	1	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	コースの概要 医療コミュニケーション1 医療情報収集 (医療面接) 医療面接の目的、意義、手技を説明できるようになる。	1. コース、IDPの目標、概要、評価法について説明できる。 2. 医療面接の目的と方法を説明する。 3. 医療面接の心得を説明する。 4. 主訴の定義、種類を説明する。 5. 主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 6. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 [A-1-2), A-4, A-5] DESS演習の準備をしておくこと。 事前学習：WebClassの資料を理解しておく。書籍で医療面接について調べ、まとめておく。講義の最初に事前学習の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。
講義	9/2 (月)	2	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	医療コミュニケーション2 医療情報収集(歯科体系、専門用語、主訴、既往歴、現病歴)について説明できるようになる。	1. 診療録の意義を説明する。 2. 診療録に記載する項目について説明する。 3. 歯式の記入法を説明する。 4. 歯式に用いる略語を説明する。 5. 主訴の定義、種類を説明する。 6. 主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 7. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 [A-1-2), A-4, A-5] DESS演習の準備をしておくこと。 事前学習：WebClassの資料を理解しておく。書籍で診療録について調べ、まとめておく。講義の最初に事前学習の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。
講義	9/3 (火)	1	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	医療コミュニケーション3 患者へのアプローチ 患者に対する歯科医の心構えを理解するとともに、診断の基本について説明できるようになる。	1. 患者に接するときの心構えを説明する。 2. 良医(歯科医)の条件を説明する。 3. 患者と疾患との関連を説明する。 4. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明する。 5. 診断に必要な診査事項を説明する。 6. 診断の方法を説明する。 7. 医療情報の収集法を説明する。 [A-1-2)、A-4、A-5] DESS演習の準備をしておくこと。 事前学習：WebClassの資料を理解しておく。書籍で患者に対する歯科医の心構えについて調べ、まとめておく。講義の最初に事前学習の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。

講義	9/3 (火)	2	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	医療コミュニケーション4 チーム医療と多職種連携 チーム医療における歯科医師の役割を理解し、他職種連携について説明できるようになる。	1. チーム医療について説明できる。 2. チーム医療における各種職業の役割について説明できる。 3. チームの形成過程について説明できる。 4. 多職種連携について説明できる。 [A-1-2)、A-4、A-5] DESS演習の準備をしておくこと。 事前学習：WebClassの資料を理解しておく。書籍でチーム医療と多職種連携について調べ、まとめること。 講義の最初に事前学習の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。
実習	9/3 (火)	3 4	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 横田 潤講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野) 菊池恵美子助教 (歯科矯正学分野) 星野正行助教 (歯科放射線学分野) 千葉 学助教 (歯周療法学分野)	医療コミュニケーション実習試験 (矢巾実習室) ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 [F-1-1)] 事前学習：IDP講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。
実習	9/9 (月)	1 2	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 横田 潤講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野) 斎藤桂子助教 (小児歯科学・障がい者歯科学分野) 他：口腔外科学分野、歯科麻酔学分野 教員	医療コミュニケーション実習試験 (矢巾実習室) ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 [F-1-1)] 事前学習：IDP講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。

実習	9/10 (火)	3 4	<p>浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野)</p> <p>千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)</p> <p>岸 光男教授 (予防歯科学分野)</p> <p>菊池恵美子助教 (歯科矯正学分野)</p> <p>星野正行助教 (歯科放射線学分野)</p> <p>他：口腔外科学分野 教員</p>	<p>医療コミュニケーション実習試験 (矢巾実習室)</p> <p>ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。</p>	<p>1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 [F-1-1]</p> <p>事前学習：IDP講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。</p>
実習	9/17 (火)	3	<p>千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)</p>	<p>補足実習 ※該当者のみ、それ以外は出席確認無し、自主学習</p> <p>医療コミュニケーション実習 ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。</p>	<p>以下の項目を規定時間内に実施できる</p> <p>1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 [F-1-1]</p> <p>事前学習：補足実習該当者は、「医療面接実習」の内容を復習し、各自シミュレーション練習して実習に臨むこと。</p>
実習	9/24 (火)	1 2 3 4	<p>野田 守教授 浅野明子准教授 中村友宣助教 東 兼司助教 (う蝕治療学分野)</p>	<p>診療姿勢 ルーペの使用 方法 切削器具の 使い方 模型製作</p> <p>シミュレーター実習で、ルーペを装着し、正しい診療姿勢で人工歯に高速切削器具で形成できるようになる。</p>	<p>1. 適切な診療姿勢をとることができる。</p> <p>2. ホームポジションをとることができる。</p> <p>3. ハンドピースの3種の持ち方ができる。</p> <p>4. 正しくレストを置くことができる。</p> <p>5. 窩洞形成器具の作動様式と切削方法を理解した上で、実際に窩洞形成を行うことができる。</p> <p>6. ルーペの調整を行うことができる。</p> <p>7. ルーペを装着して切削できる。</p> <p>8. 人工歯に適切な形態と深さの窩洞を切削できる。</p> <p>9. 適切な粉液比で硬石膏を練和し、石膏模型を作製することができる。 [E-5-1-1, E-5-1-2]</p> <p>事前学修WebClassにアップした実習書を理解して実習に臨むこと。</p>

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	メディカル・インタビューマニュアル第3版：医師の本領を生かすコミュニケーション技法 第3版	福井 次矢 監修	インターメディカ	2002
参	POSによる歯科診療録の書き方	日野原 重明 監修	医歯薬出版出版	2005
参	臨床口腔診断学	内山 洋一ほか編	国際医書出版	1994
参	総合口腔診断学	増田 屯 編	砂書房	1996

成績評価方法・基準・配点割合等

講義、実習いずれとも合格したものを合格とする。
 講義：レポート課題により評価する。レポート評点65点以上を合格とする。
 実習：実習過程、実習試験で評価し、実習評点65点以上を合格とする。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

本コースでは、一般的な講義に加えて、相互実習、相互評価の機会を設け、伝える力の強化を図る。
 講義資料は1日前までにWebClassにアップする。または、講義、実習時に資料を配布する。
 インターネット上の教材(DESS問題、WebClass教材)を利用することがあるので、学生は講義室でインターネットに接続可能なPC、タブレット等の準備をしておくこと。

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的